

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,650円
(1,500円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

10

Vol. 815
October 2025



小松大谷高等学校野球部「夏の甲子園」に出場

今月の写真

真宗大谷派の関係学校である小松大谷高等学校野球部が「第107回全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)」に、石川県代表として2年連続、4回目の出場を果たしました。猛暑の中、アルプス席からはブラスバンドによる演奏に加え、同校生徒を中心とした白熱した応援が球場に響きわたりました。残念ながら初戦敗退となりましたが、選手たちは引き締まった好ゲームを見せてくれました。

今月の法話 如是我聞

古池や

古池や蛙飛び込む水の音

富山教区第3組大福寺
太田 浩史(70)

「この音が聞こえるか？」と師にたずねられた時、私は困った。芭蕉の句はそれなりに解説できる。蛙が一匹飛び込む音がした。池は千古、蛙は瞬間。対比の深淵は水音に凝縮され、命のはかなさは永遠の裏付けを得る。AIならそれくらいのことをいうだろう。だが説明ではなく、音そのものについて師は問うのである。私は「耳をすましても聞こえません」と降参した。

その時、「*阿頼耶識の響き」といわれた。「阿頼耶識は宇宙や、宇宙全体が鳴り響いとるのに、耳をすますのか」と笑われた。

先日京都迎賓館を見た。人間国宝が群がり作った超絶技巧の塊だったが、AIならこれをやってのけるかもしれないと私は不安になった。すると京都の迎賓館にいらながら、東京の民藝館が心中にあらわれた。あそこにあるのは貧しい民衆の持ち物ばかりだが、AIに作れない品々を選んでいる。超絶は真似られても正直は真似られない。AIに阿頼耶識がない以上、民藝品を作ったり妙好人になる日は永遠に来ないだろう。迎賓館は真似られても迎賓館は真似られないのだ。すこし人間であることに誇りをおぼえた。

*阿頼耶識：私たちの意識のもっとも根底にある領域。あらゆる経験の情報を取捨せず、あたかも無数の種のように取り込んで、やがてそれらを発芽させ、私たちのあたたかな経験を出現させる。好むと好まざるにかかわらずそれが我が身ということであり、それを認めざるを得なくなった時、私たちは阿頼耶識の奥底からの響きを聞くのだと言われる。

真宗本廟

開門・閉門時間
5:50~17:30



Pick up

一般参拝案内【無料】 毎日2回(9:30~15:00)
職員が御影堂と阿彌陀堂をご案内します。
※都合により、休止日もあります。

しんらん交流館

開館時間
9:00~17:00
休館日
毎週火曜日



Pick up

絵本コーナー
畳敷きのコーナーでゆっくりと絵本に親しむことができます。※貸出可能(16:30まで)

しょうせい えん 渉成園

開園時間
9:00~17:00
(受付は16:30まで)



庭園維持寄付金
大人 700円以上
中高生 300円以上
小学生以下 無料

今月の見どころ

からたち 枳殻に実がつく季節です。
枳殻の別名、枳殻郎の由来となった植物です。

インフォ
information
真宗大谷派
ホームページ



この紙面では、さまざまな人とおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思ひます。

人間といういのちの相

すがた
連載

社会の課題に心え続ける教え〈後編〉

木越 渉 宗務総長 × 織田 顕祐 教学研究所長

宗派には、教学の研鑽と現代社会に伝える教化の推進に必要な調査・研究を行う「教学研究所」が設置されています。本年2月、織田顕祐氏が所長として就任しました。宗務総長と教学研究所長は、現代の思想や宗教的課題などについて、定期的に懇談を行っています。その懇談の「コマ」を前月から2回に亘ってお届けしています。

※取材 本年春



木越 渉 / 1957年生まれ。2021年10月に宗務総長に就任。光専寺(金沢教区第11組)住職。



織田 顕祐 / 1954年生まれ。大谷大学名誉教授。2025年2月に教学研究所長に就任。顯明寺(岡崎教区第23組)兼住。

わかる・わからないではない学び

— お二人にとって、師友と出あえた大谷大学とは、どんな場でしたか。

木越 私が大谷大学に入った時、松原祐善先生が学長で、とにかく清沢満之先生の名前を聞かずに卒業させたらあかんと仰っていました。そういう信念から大きな成果が生まれたと思うんですね。織田 大きいです、こういうことを学んでほしい、わかってもわからなくてもいいから学んでほしいということがはつきりありました。そのために、真宗学科は、

わかってもわからなくてもいいから本物にふれてもらう。そういうことが人を育てるんじゃないかと思ひます。今の学びの視点は、わかるかわからないかが大事になっていて、世の中にはこんなに難しいことがあるぞみたいな、そういうものにふれて人間の知恵の小ささに出遇った方がいい気がします。

師友とあう

木越 今でも大谷大学へ行つて、他の大谷と違うと感じるのが、授業がない日でも学校に来る学生が結構いることです。**織田** 学生と先生との密度というか関係が濃いということがあると思ひます。

例えば、他校の同級生と喋っていると、恩師という概念がないと言つてくれます。「私の恩師がみたいなことを言つて」「恩師って何ですか」と聞かれる時があります。授業を受けて、単位を取つて卒業

しただけで、恩師に出あつて卒業したという感覚がほとんどないそうです。学生と先生が交流し、教える・教えられるだけの関係ではなく、人間として1対1で付き合う時間が、どうしても人間の成長には必要だと思うんですね。**木越** 曾我量深先生が学長の時に、入学式で「本校は役に立つ人間をつくる場所にあらず」と仰いました。今年の大谷大学の入学式で少し披露させていただきました。役に立たないより役に立つ方がいいけれども、この大学は、それを目標にはしないんだと申しました。勝つたか負けなかったか、損か得か、役に立つか立たないかで生活している中で人間性や関係性が壊れていくことを痛まれ、そこを超えてゆく道を示された如来、その如来の教えに出遇つたら、役に立つか立たないかを目標にするわけにはいかん。

結局 どういう人になればいいかという、いてほしい人というのか、あなたがこの場においてよかったという実感を生むような人ですかね。そういう意味で、大谷大学は、人と真向かう、自分と真向かう

うこの大切さ、意見が合う合わないを超えて大事にするということを教わる場だと思ひます。**織田** そうですね。そういうことを聞き学び、どこかに持ちながら社会に出て行くのと、まったく知らないで行くのとでは、同じところへ飛び込むにしても、だいぶ違うと思ひます。そして、その時に自分で考えて、自分の行動や生活を決めていく。そういう力がないと余裕がなくなるし、人の話を聞くこともできません。清沢先生の文章の中に、「人心の至奥より出づる至盛の要求の為に宗教あるなり」とあつて、最後のところに「栄養も亦た然り」と書かれています。教えとは、何かご飯みたいなものだと思つては、自分で噛んで、自分で飲み込まないと、自分の力になりません。ご飯を見ていると全然、腹は膨れませんが、説明しても駄目だし、「これはうまいよ」と言つても駄目で、その噛み方や飲み込み方を教わる、そういうことを身に付けるべきですね。それがわかれば、ど

すべての存在は関係性の中にある

— 今、能登の地震をとおして課題になったのが、宗教法人としてのお寺の在りようです。非営利法人であつて、公益性ということが問われています。

木越 宗教に対して懐疑的な感情がはびこっている中で、寺院が法人格をいだけているというのを、真宗大谷派教師の学びの中でしっかり学ばないといけないと思つています。

自分が預かるお寺だ何とかがするといふ話ではなく、大乘の仏道を説くという公益性と、社会に開かれたお寺の存在というものをきちんと示せないと、宗教に信頼を置くということは、なかなか実感として湧いてこないと思つてます。

真宗大谷派の教師資格を取るにあつたのは、「是旃陀羅」の課題も特にそうなんですけれど、社会の問題が念仏者の課題となるということについて、未だにわからんと仰る方が多いんです。

社会に相対するために仏教を武器に使うということではないと思ひます。社会の抱えている問題、衆生の課題や問題に仏道を見出し、いく眼が、教師に必要なだと思つてます。

教師修練やテキスト編纂などを担われる中で、先生は真宗大谷派の教師、僧侶が立つべきところについて、何を意識されてきましたか。

織田 難しい問題ですね。現代の問題を念仏で解くということですよ。そういううしかないんじゃないかと思ひます。現代の問題といつても、その根っこは人間の問

こへ行つても、あるものをちゃんと食べて、噛んで自分の力にしてそこで生きていく、でも心配なような気がするんです。

— いかと僕と思ひます。「正信偈」で「難中之難」と宗祖が仰る。そこを丁寧に掘り返していくということだと思つてます。

僕がこれからやつていこうと思つているのは言葉の問題です。日本語を喋るといふことはみんな共通ですよ。言葉がなければ日本の社会はないし、個人もないですよ。社会と個人は言葉をつながつて支えています。社会が私をつくり、私が社会を支えているという、共同体というか、同じところについていけるかな。すべての存在は単独では存在せず、他の存在との関係性の中で存在する「相依相待」のような関係性になつていこうと思つてますよ。この事実を丁寧に開いていきたいと思います。

社会の問題は、それを誰が担つたり支えたりしているかという、一人ひとりの人間なわけで、それが社会と信心がばらばらであつたら、社会性は当然もちません。だから社会の問題を念仏で切り開くとか、掘り下げるとか、何か解決の道を探るとか、そして向き合つていく発想が大切だと思つてます。

逆に、仏法を社会に生かすということはどうですかね。思つてます。どこまでも、社会の問題を、仏法をいだけく自分の問題として向き合つことが大切だと思つてます。

問われてゐる者として

木越 「仏説無量寿経」に説かれる、世自在王仏が現れる前、五十三の仏が教えを説き、人々を導いたとされる「五十

三仏の伝燈」でも、「普賢大士の徳に違つて」と、お釈迦様の歩まれたことを全て

王様でないといふ陀になれないということではなく、「仏説無量寿経」にある王様といふのは利他行というか、「他の救い」を絶えず課題にする者が仏陀になつていくという、そういう比較だと思つてます。如来が衆生の苦悩を課題として立ち上がった。衆生の苦悩がなければ、仏教も起らない。苦悩があつて仏道が成る。そういう意味で如来は人間の、社会の苦悩の中で立ち上がった方です。ですので、当然、浄土の真宗は社会の課題に心え続ける教えである、こう言えるのではないのでしょうか。

織田 現に事実としてそこに立っているわけですから、それを見損なつていかに気づくかということですかね。そのことだけじゃないかと僕と思つてます。

木越 そうですね。例えば、清沢先生の「自己とは何ぞや」という言葉だけを掴んで、自分が明らかにならないと、他を課題にするのはできません。

織田 それは言葉が逆転していますよね。清沢先生はそういうふうには書いてかもしれないけれど、それは問われたことを書いているわけで、自分で自分に向かつて問うたわけじゃないんですね。

病気になるたりいろいろなことがあつて、一体何者なんだつて問われて、それを言葉にしたわけで、清沢先生はその言葉を立てると、こういう言葉を学ばなきゃいけないという学習になつてしまふんだと思つてます。そこが完全に逆転していきまますよ。問われている者なのに、問う側に回るわけじゃないですか。「自己とは何ぞや」と問う。問うても答えは出てきません。自己は無我なんですから。

いつでもそついつことは起きると思ひます。言葉を学ぶことが学習みたいになつて、言葉を説明するといふことになる。我々は

教学研究所では研究紀要『教化研究(年2回)、月刊法話』と『もしび』を発行しています。

織田所長によるコラムを浄土真宗ドットインフォにて公開中!

詳しくはこちら

東本願寺日曜講演や親鸞聖人讃仰講演会の抄録などを掲載

教化や教学に関する論文、コラムなどを収録

購入や詳細はこちら

通信員リレーレポート

第262回 いまを生きる

受け継ぐ責任

九州教区 鹿児島組
東聖寺門徒
柳川俊光さん



柳川 俊光さん

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

鹿児島県西部の薩摩川内市。その中心街にある東聖寺で、今年から総代を務めることになった柳川俊光さん。

柳川さんと東聖寺の付き合いは40年以上になるといいます。現在住んでいる街に引っ越してきた際、納骨やお墓の移動について相談をしたのが縁で東聖寺のご門徒になら



「正信偈」のテキストとして使用されている「はじめてのお勤め練習帳 正信偈」

れたそう。しかし、当初はお寺の行事等にお手伝いで参加していても、どこか自分が真宗門徒であるという意識は薄かったという。

そんな柳川さんに意識の変化が訪れたのは、約10年前、前任の世話役であった母親からその役目を引き継いだ時。はじめは訳もわからず世話役の仕事をしていたが、お寺と関わるうちに、

同朋の会や報恩講などで門徒と住職が一緒になつて活動している姿を見て、「お寺がご門徒の拠り所になつていて、多くのご門徒が護つてきたこのお寺を、これからは自分たちが護つていく必要があるんだ」と思った

九州教区通信員
中村 大心

「静かに力強く語られた。現在、全国的に寺離れが進み、お寺の役員の担い手を確保することも難しくなってきた。そのため、さまざまな方法でお寺に人を集めようとする試みがなされている。しかし、人を集めようとする点にばかり気を取られ、まず自身が浄土真宗の教えを聞き、ご門徒や次世代に伝えていくという点が薄れているのではないだろうか。柳川さんの言葉は、私たちが忘れかけている「受け継ぎ、次世代に引き継ぐ」という想いを、あらためて思い出させてくれる非常に重い言葉だと感じた。

燈明寺は、蓮如上人も訪れた加賀山中温泉の温泉街に建つお寺である。そのため、燈明寺の掲示板の前には、地域の方をはじめ、観光客の方もよく足を止める。「見えますよ」と声をかけられることもあるそう。

現在、掲示板の言葉は、ご住職の娘の史香さんとその夫の駿さんが交互に選んでいる。駿さんは、真宗の学びの中で、自身の経験と照らし合わせて得られた気づきを、掲示板を見る人にも共有できればとの思いから、「真宗聖典」の言葉を選ぶことが多いそう。

それに対して史香さんは、通りかかった人により目を向けてもらえたらとの思いから、生活の中で感じた事柄を表

小松大聖寺教区通信員
出雲路 雅

振り向かぬ
子を見送れり
振り向いたときに
振る手を
用意しながら
俵万智

阿弥陀さまの功德は、子に対する親の愛に喩えられます。少し前まで泣きながら後追いをしていた我が子が、今では「待って」と呼び止めても見向きもなくなりました。それでも、保育園の先生のもとに駆けっていく子の背中を見守っていると、阿弥陀さまもこの詩のようにに我々を見守ってくださいというのかなと思いを重ねます。

出典：俵万智作 歌集「おれがマリオ」

縁 お寺の掲示板 第26回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



燈明寺 (小松大聖寺教区 第1組)
石川県加賀市山中温泉栄町二の83番地の甲
住職 富樫 和國

**帰敬式の肩衣を
取りかえることができます**

帰敬式を受式された時に受け取られた肩衣は、長くお使いいただいている間に傷んでくる場合があります。所定の簡単な手続きで新しい肩衣を受けませんか。お手次ぎの寺院、または最寄り教務所へお問い合わせください。

**取りかえ(再交付)
にかかると費用
略肩衣
3,000円**

※簡法ハンドバッグも新しいものをお求めいただけます 1,000円

東本願寺御用達
日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075) 351-6325
フイ-FAX 0120-89-5255
定休日：日曜日

2026(R8)年 詩と花の絵のカレンダー
みすゞと四季
金子みすゞ(童謡詩人)×山田りえ(日本画家)
月ごとに味わう「みすゞの詩」と「花」。

大好評 第4弾

☆六曜入もお選び頂けます
☆A4判オールカラー
中綴/見開きA3判
上部：詩と絵/下部：カレンダー
定価1,500円(税込)

実物見本お送りします
名入れ受け取り中!!

直筆版『東井義雄』
東井義雄記念館監修
書け人なり
心に沁みる
言葉の数々

日めくり万年カレンダー
フリーダイヤル 0120-557-750
京都府伏見区日野不動講町38-25

※ご購入価格5,000円以下の場合、送料は全国一律550円(税込)にて発送させていただきます。

親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号からは源信について、3回にわたってたずねています。



ひかり

七高僧と聖徳太子

第22回

源信僧都



本師源信ねんごろに

一代仏教の

そのなかに

念仏一門

ひらきてぞ

濁世末代

おしえける

〔高僧和讃〕
『真宗聖典』六〇二頁

【現代語訳】

根本の師である源信僧都は、丁寧に
 積尊が一代の間に説いたさまざまな
 教えの中から
 念仏の一門をひらいて、
 積尊から遠く時代が隔たり何が真
 実なのか見通せない中を生きている
 人びとに教えたのだ。

母の願いをうけて比叡山へ

源信僧都(九四二―一〇一七)は、日本の平安時代に活躍した人物で、恵心僧都とも呼ばれます。

七歳の時に父と死に別れ、九歳で比叡山の良源(九三二―九八五)の弟子となりました。これは、信仰心の厚い母親の影響があったとされます。当時の日本では、伝統的なものから最先端のものまで、多種多様な仏教が盛んに研究されていました。そのような中で、源信僧都は真摯に仏道修行を進め、精神的に吸収しました。

やがて、十五歳の時には、大きな法要の重要な役に任じられるまでになります。そして、その法要の後、多くの褒美を天皇から受け取りました。大変光栄に思った源信僧都は、その一部を母親に贈ったのです。

後の世を渡す橋

ところが、母親は、息子から贈られた品々を送り返すとともに、一首の歌を添えました。

後の世を 渡す橋とぞ 思いしに
 世渡る僧と なるぞ悲しき

と詠んで、「自らの渡世としてではなく、人びとをお浄土へと導く、まことの求道者となってください」と諫めたのです。

源信僧都は、大いに恥じ入りました。母親と別れて仏門に入ってから、一所懸命に仏教を学び、周囲から認められるほどにまでなりました。しかし、そのような自らの努力の根底には名利を求める心があることを、母には見抜かれていたのです。

これ以降、源信僧都は、ますます仏教の研究に精進します。中でも、「後の世を渡す」ようにとの母親の願いを大切にしました。

「後の世を渡す」とは、苦しみを超えてさとの世界につながることで、そこで源信僧都がひかりを見出したのは、当時必ずしも仏道修行の本流とはされていなかった浄土教でした。

『往生要集』の執筆

源信僧都の業績の中でも最もよく知られているのは、『往生要集』を執筆したということでしょう。親鸞聖人にとっても、その影響は少なくありませんでした。

『往生要集』は、地獄のイメージを広く普及させた書物として知られます。しかし、実際には、地獄の説明は一部でしかありません。大半は、極楽浄土とはどのようなところで、どのように往生できるかということの検討です。

経典や論書には、さまざまな修行法が説かれてはいます。しかし、いまは、その教えを説いた仏からも遠く隔たっています。しかも、何が真実で拠り所となるのか、見通すことができない世でもあります。それらを踏まえて、源信僧都は、念仏こそが最もすぐれた行であると結論づけたのです。



わけみ あきら
 采翠 晃
 大谷大学文学部
 仏教学科教授
 京都教区近江第25西組
 長光寺住職

特集

ブラジルであおう!

2026年8月29日(土)~30日(日)の2日間、南米開教区を会場に第14回世界同朋大会が開催されます!
今号では、世界同朋大会の魅力とその内容についてご紹介します!

海外でも

親鸞聖人?!

皆さんは、海外にもお寺があることをご存知ですか? 明治期の移民政策により、多くの日本人が海を渡りました。親鸞聖人の教えもまた、移民とともに海を渡り、教えを中心に寺院が建立され、人々の心の拠り所となりました。

今では、ハワイ・北米(主にロサンゼルス)・南米(主にブラジル)という3つの開教区のほか、ニューヨークやヨーロッパにもその念仏の輪が広がっています。



▲花まつりの様子(北米)



◀盆ダンスの様子(ハワイ)

▼アサイ照真寺 創立70周年 法要の様子(南米)



第14回 世界同朋大会

Dōbō

「同朋(ボン・アミーゴ)ー多様性を生きる」
人と生まれたことの意味をたずていこう
南無阿弥陀仏

世界同朋大会って何?!

1977年に第1回大会が開催され、以来、開教区と日本とで交互に開催されており、今回で14回目を迎えます。

世界各地にいる真宗門徒が一堂に会し、日程をとおして親鸞聖人の教えを確かめ合う大会です。

他にも、海外の寺院の紹介やグループディスカッションなどで、お互いの文化を学び交流を深めることも大会の醍醐味の一つ。

晩餐会では、各開教区からの音楽や歌、踊りなどが披露され、自然と会場全体が一つになります。

話す言葉が違って、お勤めは一緒にできる。「同朋」であることの実感。この感動は参加しないと味わうことができません!

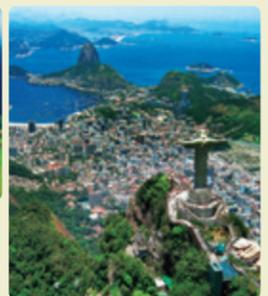


過去の世界同朋大会の様子

第14回大会の魅力は?!

今大会の会場となるイグアスは、ブラジル・アルゼンチン・パラグアイの3国が交わり、「イグアスの滝」でも有名な国際都市です。豊かな自然が織りなす多様な生態系と多くの人種と文化が共存する、まさに今大会の「多様性」を象徴する場所です。

今大会では、通訳者を交えたグループディスカッションも予定しています。異なる文化や経験など、参加者同士で直接言葉を交わすことで「多様性」を実感してみませんか?



2026年 8月29日(土)

- 9:30 海外開教区慶讃法要お待ち受け大会(開会式)
- 11:00 記念講演
講師:マイケル・コンウェイ氏(大谷大学文学部准教授)
- 14:00 各開教区からの提言
- 15:30 グループディスカッション
- 17:30 晩餐会(開教区出し物)

8月30日(日)

- 9:30 おあさじ
- 10:30 講義
- 11:30 閉会式

リオやマチュピチュを巡るツアーをご用意しております!

ぜひ、この機会に第14回世界同朋大会に参加し、

世界中の真宗門徒と言語・文化を越えた

つながりを感じてみませんか?

お問い合わせは組織部(国際室)まで

★電話 075-371-9187

★FAX 075-371-9194

★MAIL kokusai@higashihonganji.or.jp

詳細・参加申込みはこちら



濁浪清風

連載コラム 第4回 本願の信心 —本願について—

文・本多弘之

前回、本願は菩提心に関連して考察されるということを書きました。菩提心とは、積尊のさとり内の実を体験しようとする意欲です。その意欲が目指すべきは、人間像としての積尊個人の優れたあり方(お姿・能力)などが讃えられてはいますが、積尊の悟られた法であることを涅槃説法で明示したということでした。このダルマのさとり(菩提)を求める心を菩提心と言いますが、仏弟子たちがこの意欲を持つことで、菩提への衆生、すなわち菩提薩多(略して菩薩)と呼ばれるようになったのは、実は積尊が入滅されて数百年経つてからとされています。それ以前には、積尊の生前についての物語(本生譚)において、積尊の前身を表す言葉として使われていたのだとされています。

そして菩薩の集まりであるような集合体を僧伽と言います。この語において、仏弟子として求めるべき菩提を究明してきた流れが、大乘の仏教運動となり、仏教経典を生み出すような歴史となってきたのです。

ここで「大乘」というのは、古代インドの言葉では「マハーヤナ」と言い、大きな乗り物という意味だそうです。この言葉の示す方向は、積尊の開いたさとり(菩提)が持っていた広大性の方向、すなわち梵天の勧請として伝えられている人類の苦悩の闇からの解放の方向なのではないでしょうか。これが如来の大悲であるともされています。

ここに如来という言葉が出てきました。この語は、古代インド語では「タータガタ」であると言われ、「如から来て、如に帰る」という意味であると説明されています。この「如」とは、「ごとくある」とか「ごとし」とされ、それが名詞として「ごとくあること」とも使われます。この如、これが仏陀の開いた菩提そのものであり、一切の事象の変わらざる本質のなとも説明されています。

そして積尊を釈迦如来とお呼びするのは、釈迦は如から来て、衆生を如に返すはたらきをして、自身も如に帰るからであると言われているのです。これによって、積尊入滅時の説法で「法」と言われていたことが、「如」であり、これが「真如」とか「法性」とかと言ひ換えられ、それは不生不滅であり、時間空間やさまざまな条件をも貫いて常住不変であるとも説明されるのです。

それに対し、この世のあらゆる現象は生滅し生々流転すると教えられます。確かに私たちが取り巻く現実には、またたく間に移りゆくのです。

親鸞仏教センターのホームページがリニューアルされました。本多弘之氏のコラムもお読みいただけますのでぜひご覧ください。



池田 勇諦氏 ご命終

宗派の教義及び聖教に関する重要事項を審議する董理院の院長、また宗務顧問会顧問を務められていた池田勇諦氏が6月29日に命終された。池田氏は、2000年に真宗大谷派講師、董理院董理、2021年から董理院長を務められた。また1998年には関係学校である

同朋大学の学長に就任された。真宗本願報恩講讃仰講演会講師を1990年から2024年まで務められるなど、宗派の教化活動にも尽力いただいた。

なお、池田氏の遺言に基づき、遺族の池田徹住職より、真宗大谷派、同朋大学、桑名別院に対し、それぞれ多大なご寄付をいただいた。



目録手交の様子

親鸞聖人讃仰講演会の様子(2024年)

お東さんガイド

大谷祖廟「暁天講座」開催

—早朝の澄んだ空気の中で教えを聞く—

8月1日から5日にかけて、大谷祖廟の夏の法座である「暁天講座」が開催されました。「暁天講座」は夏の暑さを避けた早朝の澄んだ空気の中で、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えをともに聴聞する場として毎年開催されています。期間中は毎日午前6時30分からの動行に引き続き法話が行われ、5日間で約300人が参加されました。



レポート

第64回「東大谷万灯会」開催

—子ども提灯が参拝者の足もとを照らす—

8月14日から16日の3日間、大谷祖廟(京都市東山区)において第64回「東大谷万灯会」が開催されました。期間中は毎日午後7時より「お盆法要」をお勤めし、佐賀枝夏文氏(大谷大学名誉教授)による法話が行われました。境内には大谷保育協会京都支部加盟園の園児たちが作画した子ども提灯が吊るされ、午後6時になると約200個もの色鮮やかな提灯が訪れる参拝者の足もとを照らしました。また、御廟(親鸞聖人のお墓所)に備えられた仏花を用いて花文字が製作され、今年は「同朋」の字が飾られました。今年も多くの方々が大谷祖廟を訪れ、亡き方をご縁に手を合わせる姿が見られました。

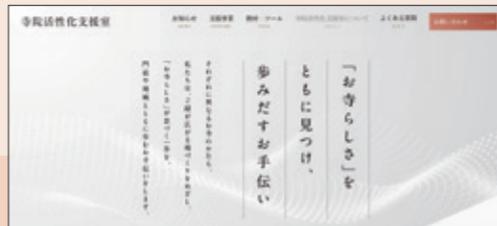


お知らせ

お寺の魅力
未来へつなぐサポート

「寺院活性化支援室」
ウェブサイトをリニューアル!

詳しくはこちら



参議会議員補欠選挙

山陽四国教区	新潟教区
保田 義一参議会議員の辞職に伴う補欠選挙の結果、北川 重美氏(山陽四国教区第1組正圓寺門徒)が当選。	吉田 衛参議会議員の辞職に伴う補欠選挙の結果、澤辰雄氏(新潟教区第22組善龍寺門徒)が当選。

読者のお便り

父を亡くして

三重県在住
女性(56歳)

8月に、父の初盆のため実家に帰省しました。父が亡くなったことの寂しさを実感しています。母は普段から『同朋新聞』を読んでいたのですが、いつもより見入っていたのでどんな記事なのだろうと気になり、自宅に届いていた『同朋新聞』を初めて読んでみました。

4面の「現在を生きる」でご先祖様から受け継がれてきたものを大切にされているご門徒のお話を読んで、それまでは悲しみに暮れていましたが、幼い頃に父親を亡くした父が、苦勞して守ってきてくれたものに目を向けることができました。家族と力を合わせて、私も受け継がれてきた土地や農業

を守っていこうと思います。自宅で義父母と紙面について話をするようにもなりました。また、いつもは何気なくお内仏に手を合わせていたのですが、手を合わせる時間とおして亡き父を偲び、日頃のことを語りかけるようになり、私にとってとても大切な時間になりました。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihongani.or.jp FAX/075-371-9211 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版『同朋新聞編集係』

住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。




北陸銀行で年金をお受け取りのお客さまへ

年金定期預金

特別金利

1年

0.50%

税引後金利
年0.398%
[小数点第4位以下
切り捨て表示]

お預入れ方法、年金受取口座の変更方法など、くわしくは北陸銀行の窓口へお問い合わせください。 ※店頭でのお手続きに限り。インターネットバンキングではお取り扱いしておりません。

ご利用いただける方①国民年金・厚生年金・共済年金を北陸銀行でお受け取りの方②北陸銀行で新しく年金自動受け取りを開始される方 ※年金定期預金のお預入れ期間中は、当行で年金のお受け取りを継続していただくことが条件となります。 ※厚生年金基金から支払われる年金等、いわゆる企業年金は対象外とさせていただきます。お預入れ期間1年 ※満期日以降の自動継続はございません。 ※満期後はご指定口座に元本とお利息を入金いたします。

お預入れ金額/上限なし(1円単位) 定期預金種類/スーパー定期・スーパー定期300・大口定期預金 ※お預入れ金額で判断いたします。 ※金利環境の変化等により、商品内容を変更またはお取り扱いを中止させていただく場合があります。 ※中途解約された場合、特別金利は適用されず、当行所定の中途解約利率を適用いたします。 ※満期日以後は、ご指定口座の利率を適用いたします。 ※本商品は預金保険制度の対象であり、他の対象商品と合算して預金者お1人あたり元本1,000万円までとその利息が保護されます。 ※店頭に説明書をご用意しております。

真宗本願奉仕に参加しましょう —言葉では説明できない“場の力”がここにある—

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間/3月~10月:5時50分~17時30分
11月~2月:6時20分~16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂
および御影堂
【時間】毎日7時~

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・
御影堂・
参拝待所仏間
【時間】通常 10時10分~/
13時10分~

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日
7時30分頃~

速夜日
(12・27日) 13時10分~
御命日
(28日) 9時30分~

参拝待所 ギャラリー

【時間】9時~16時
「涉成園展」(9月5日~10月28日)
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)

※その他、時間・会場を
変更する場合があります。

詳しくは →

東本願寺

検索



しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、
ぜひお立ち寄りください。
開館時間/9時~17時 休館日/毎週火曜日

10月の定例法話

【時間】毎日14時~(27日は10時~)
※12日、休館日は休会。その他、都合により
休会する場合があります。

10月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分~11時
【講師】10月5日 松下 俊英氏
(教学研究所研究員)
10月19日 武田 定光氏
(東京教区因速寺住職)
10月26日 マイケル・コンウェイ氏
(大谷大学准教授)
※10月12日は休会。

詳しくは →

浄土真宗ドットインフォ

検索



真宗本廟奉仕に参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機に
ぜひ帰敬式を
受式ください



真宗本廟お煤払い奉仕団

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と
大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、
新しい年をお迎える準備を行う
「お煤払い」に参加する奉仕団です。

真宗本廟おみがき奉仕団

春の法要を迎えるにあたって、阿
弥陀堂や御影堂の仏具のおみ
がきを日程の中心とした奉仕団
です。

2泊 2025年
12月19日(金)~21日(日)
1泊 2025年
12月19日(金)~20日(土)

2泊 2026年
3月2日(月)~4日(水)
1泊 2026年
3月2日(月)~3日(火)

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・
お問い合わせ

同朋会館・研修部
TEL:075-371-9185



入館中はお仲間や
他団体の方々とカフェ
(無料)でほっこり♪

救援金を 勧募しています

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金
口座

郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名

真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

救援金
総額

247,865,029円
(2025年9月2日現在)

今月号の『同朋新聞』を読んで、 クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付
を完成させよう!

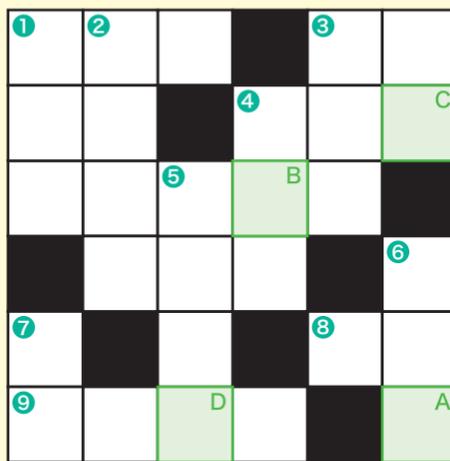
タテのカギ

- 「人間というのちの相」今月のタイトルは「社会の課題に
応え続ける〇〇〇(後編)」です。(2・3面)
- 「ひかりを伝えたい」と「本師源信〇〇〇〇に 一代仏
教のそのなかに 念仏一門ひらきてぞ 濁世末代おしえ
ける」(5面)
- 世界同朋大会は、世界各地にいる真宗門徒が一堂に
会し、日程をとおして親鸞聖人の教えを〇〇〇め合う
大会です。(6面)
- 第14回 世界同朋大会のテーマは、人と生まれたこと
の意味を〇〇〇〇ていこう「同朋(ボン・アミーゴ) 一多
様性を生きる」です。(6面)
- 「縁 一お寺の掲示板」今月の法語は「振り向かぬ 子
を見送れり 振り向いたときに 振る手を〇〇〇〇なが
ら」です。(4面)
- 月刊『同朋』10月号の特集は「アポリシヨニズム 一今
「〇〇」〇べきこと」です。(8面)
- 8月1日から5日にかけて、大谷祖廟の夏の法座である
「暁〇〇講座」が開催されました。(7面)

ヨコのカギ

- 「ひかりを伝えたい」と親鸞聖人が〇
〇〇〇〇の教えを自分のところまで届
けてくださった師として、生涯大切に
仰がれた方々がいます。(5面)
- 「ご案内」真宗本廟おみがき奉仕団
は、春の法要を迎えるにあたって、阿
弥陀堂や御影堂の仏具のおみがき
を日程の中心とし〇〇〇う仕団です。
(8面)
- 「しんらん交流館」絵本コーナーで
は、量数きのコーナーでゆっくりと絵
本にし〇〇〇〇ことができます。(1面)
- 「現在〇〇〇きる」今月のタイトルは
「受け継ぐ責任」です。(4面)
- 『民藝 一他力の美』は、柳宗悦をは
じめ民藝運動にさ〇〇〇〇〇さまさま
人物のエピソードも交えたエッセイ。
(8面)

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう! 10月号の
『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!



8月号のクロスワードパズルの答えは、

ひらかな

答え

A B C D

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

編集室だより

◆「第107回全国高等学校
野球選手権大会(夏の甲子
園)」開会式の選手宣誓で
こんな言葉がありました。「宣
誓 私たちは、人々に大きな感
動を届けたいと思います。
(中略)己の限界に挑戦し、仲
間との絆を深め、相手チーム
を敬い、正々堂々とルールを
守りプレーする、私たち高校
球児の姿は多くの人々の心
を打つと信じています」と。毎
年夏の風物詩として新聞や
テレビ、ラジオで甲子園の情
報が報道され、多くの感動を
全国に届けています。スコア
ボードには得点やヒット等の
数字しか刻まれません、なぜ
毎年、夏の甲子園が盛り上
がるのか、その理由が選手
宣誓を聞いてわかる気がし
ました。 ◆今月号より60年
以上の歴史ある本紙の編集
を担当させていただくこと
になりました。貴重な機会を
いただき、大変うれしく思う
とともに、同朋会の機関誌と
して一人ひとりに届く紙面づ
くりを心掛けてまいります。
どうぞよろしくお願いたしま
す。(浅野)

読者のこえ

7月号を
読んで

◆ダニー・ネフセタイ氏のお話が大変心に沁みました。戦争を
起こさないためによく見て、よく聞いて、よく話していきたいと
思います。(兵庫県70代)

◆2025年度宗派予算の特集を読んで、たくさんの予算が具体的に
わかりやすく記されていて、今後お寺に行った時に大切に使われ
ていると思いながらお参りさせていただきます。(三重県50代)

正解者の中から抽選で3名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、2名様に月刊『同朋』をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズル
の答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・
「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する
要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の
締め切りは11月10日(月)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505
京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版
「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます!

はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、
「件名」に「同朋新聞10月号クロスワード応募」
と入力の上higashihonganjishuppan@
gmail.comへお送りください。

応募は
コチラ!



〈ご注意〉 ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報
はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用
しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本
クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

ご注文・お問い合わせは



TEL 075-371-9189
FAX 075-371-9211

詳しい書籍情報は

東本願寺出版 検索

LINE
アカウントを
開設しま
した!



@469jqkzt



『仏教がみちびく、あらたな人生』

特集 アポリシヨニズム
一今「廃」すべきこと

- 後生の一大事を心にかけて
- 出会いの真実 一嘆仏偈を読む
- 仏事作法のひとこま

〈新連載〉

- 地獄・極楽を読み解く 一新解「往生要集」
- 対話 生きづらいこの世界でも

月刊『同朋』10月号

A4判・オールカラー 60頁/
定価:440円(税込・送料別) / 年間購読:4,400円(税込・送料込)



月刊『同朋』の人気連載がついに書籍化

柳宗悦をはじめ民藝運動に
参加したさまざまな人物のエ
ピソードも交えた29のエッセイ。
民藝とゆかりの深い富山県
南砺市に生まれ育った太田
浩史氏(大福寺住職)が、「他
力の美」である民藝の世界を
案内する一冊です。

民藝
他力の美



民藝
一他力の美

太田 浩史 著 / A5変形判 96頁 / 定価:2,200円(税込)